

毎年多数の修学旅行生を受け入れ、震災学習を行う



# 住民とボランティアの協働による まちづくり主体の復興・減災活動

震災復興と減災まちづくり

一 阪神・淡路大震災まち支援グループ「まち・コミュニケーション」



震災をくり抜け、御蔵地区に生き続けるクスノキ。15年経った今も火災で焼かれた痕跡を残す



御蔵南公園のグラウンドに排水溝を4ヶ所設置。上に簡易トイレを置き、水を流せば下水道へ処理できる(右)。また、震災時に水が使えなかったことを教訓に、グラウンドの下には100tの水槽を埋め込んでいる(上)



御蔵北公園に建つ慰霊碑は、まちのシンボル。「基礎からコンクリート打ちまで、住民とボランティアが共同で作上げた」と田中保三氏。同公園には、住民の協力によって芝張りがなされ、花壇もつくられた。毎年1月17日、ここで大震災の犠牲者を弔う慰霊法要が行われる

2001年1月に竣工した共同再建住宅「みくら5」は、ボランティア団体がコーディネート役をつとめた珍しい事例。1階に「まち・コミ」の事務所が入る



神戸市・長田区

生活者にとっての減災  
活動事例から

## コミュニティの形成が復興の鍵

阪神・淡路大震災でまちの8割を焼失した神戸市長田区御蔵・菅原地区。震災から15年、同地区における神戸市の土地復興区画整理事業はすでに終了し、ケミカル工場や木造長屋が軒を連ねていた下町は、マンションや3階建住居が並ぶ新しい住宅地へと生まれ変わった。

一見、大惨事の傷は癒えたように思えるが、当時の状態で公園に保存されている焼けただれた電柱と2本のクスノキが、今なお震災の傷痕を伝え、辛苦を共にしてきた住民とボランティアの忘れ難い15年を無言のうちに物語っている。

震災直後から、「まちの再生なくして本当の復興はありえない」と訴えて活動してきた東京からのボランティア2名と地元企業社長の田中保三氏が、御蔵通5・6丁目のまちづくりを支援するボランティア団体「まち・コミュニケーション」(以下「まち・コミ」)を震災の翌年に創設。慰霊法要をはじめ夏祭りや餅つきなど、イベントの開催や「共同再建住宅」の実現など、他地域へ移った住民たちを呼び戻すことを目標に活動を始める。

「共同再建住宅」では土地の権利者や設計者、工務店との折衝にあたり、ボランティア団体としては珍しいコーディネーター役をつとめ、11世帯が同居する「みくら5」を完成させた。



震災学習では、地元住民と協力して、大きなお鍋での炊き出しも体験



地域の集会所は、住民・学生ボランティア・職人の共同作業で兵庫県香美町から移築された築130年の古民家。植栽もすべてボランティアの手によるもので、コンサートや講演会が催されるなど、地域交流の場となっている



御蔵・菅原地区への思いを託して作られた「御菅カルタ」。子どもからお年寄りまで、大勢の住民が読み札と絵札作りに参加。カルタ大会も開催した



### 「まち・コミュニケーション」問い合わせ先

〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5  
TEL:078-578-1100 FAX:078-576-7961  
<http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

「まち・コミのボランティア活動にとり、若い人の機動力は資本」と田中顧問。隣にいる宮定 章氏に代表を任せしたのは2002年。宮定氏が27歳のとき



台湾北部の淡水鎮にて、横梁から古民家移築の手ほどきを受ける学生ボランティア。福井県おおい町にあった築90年の家屋は、作家・水上勉氏の父が建てたもの。移築後は集会所および水上勉文庫として利用



2004年の台風23号による被災地、兵庫県豊岡市出石町の復興支援のため、現地の農園にて有機野菜を育てるボランティアたち

御蔵地区にある自社を火災で失った「まち・コミ」の顧問・田中氏は、震災から多くのことの学んだという。

「ないものを勘定するより、今あるものを生かす。その原動力となるのは、人、隣人が非常時に最も頼りになった。窮地に追い込まれ気付いたのは、まちの中には、いざという時に力を発揮する素晴らしい人が必ず存在するということです」

地域住民とボランティアの連携を背景に、01年、「まち・コミ」は古民家を移築した集会所の建設に取り組む。約2千万円の資金不足を、住民と建設ボランティアの無償の汗と職人の協力、そして呼びかけた募金の成果により乗り越える。

兵庫県香美町での家屋解体から御蔵地区への移築完成まで約2年半、延べ2千人のボランティアが参加し、共同作業を通して地域や人とのつながりを深めた。さらに、この古民家移築が、99年の台湾中部大地震以降交流している台湾へ日本の古民家を移築する事業につながった。

「他の被災地との交流や支援も積極的に行っているが、復興のためだけではなく、まちづくりを主体とした活動が基本」と話すのは、「まち・コミ」の代表・宮定 章氏。大震災からの復興活動で培ったコミュニティの力とリーダーシップが、今後も豊かなまちづくりのいしづえになることを期待したい。

(文責・CEL編集室)

CEL